

新宮山彦ぐるーぶ第1887回

モノレール贈呈者(㈱カマハラテック・新宮信用金庫)

モノレール完工後の初検分初試乗と行仙宿来訪

◇実施日：平成28年07月07日(木) 晴 (行仙宿27℃)

◇参加者：㈱カマハラテック・谷 公雄社長、

新宮信用金庫・井上 訓常務、沖崎吉信。 計3名。

モノレール稼動後、又6月17日の贈呈式に於いても、右のご両人に対して「是非検分試乗願いたい、何時でも同行案内する」旨の話をしていたが、業務多忙に加え天候具合がはっきりしないこともあって延び延びとなっていた。

「本日もうなー」との連絡があり、急遽段取りをつけ、行仙宿行きとなった。

朝9時30分、信金・井上常務を迎えに行く、急な話であった為か、ワイシャツに革靴姿である。途中、谷社長も同乗し、いつもの通り宮井大橋・大沼経由で11時前に登山口に着く。

モノレールを駐機場から降ろし、お二人には荷台に乗って頂く。約10分で終点のプラットホームに着いたが、この急勾配と距離を荷15〜20kgを肩で上げているのかと感心の様子であった。先日、柳川市・千乗院の吉開賢淳師から、行者堂へのお供えとして送付頂いた「清酒2本」を背負子に付ける。

モノレール検分が主であるが、この機会に是非行仙宿へも、又奥駈道へも足を伸ばして欲しい旨話をしていた事もあって3人で行仙宿へ。

通常16〜17分であるが、山を歩くことなど無いお一人には30分以上要した様に感じたとのこと、12時少し前に行仙宿小屋に着いた。

早速、小屋内で昼食とし、行仙宿小屋の建設経緯や建設時の玉岡さんのご苦勞、以後の利用状況、維持管理活動などを話しさせ

て貰った。

お二人とも想像以上の規模や立派さに驚かされていた。

ここでも谷社長には、先般の玉岡さん親子の上り下りについて、モノレール無しで来たのかと二度、三度と話をされた。自分は上半分のみ歩いて「ふーふー」なのに「どえらいもんや」と頭から離れない様で感心しきりであった。

小一時間で小屋を後にして、21世紀の森経由で帰路に着いた。

当初、井上常務から「モノレールどうなー」カマハラテック谷社長に無理言ってみいの話しからスタートした。

以後、谷社長からも協力するとの申出を頂き現地確認、山主さんの了解、森林公団と奈良県への設置許可申請と順調良く進むが、モノレール設置後の維持管理費用の発生又、動力機更新時の多額出費の懸念に加え、修行の道場である大峯山への動力導入がいいのかなどの葛藤があったが、会員の減少と高年令化のなか、近年増加傾向にある来山者への対応又、筑後30年近くなった行仙宿の補修等の維持管理負担増を考慮するなか、谷社長から以後我々の活動への理解を深められたのか、全て寄贈する「一銭もいらん」。新宮信金からも50万円寄贈するとの申出を頂いた。

モノレール設置に関して、この様なご理解、この様な条件は、絶対二度とないとの思いから、設置となったものである。

谷社長、井上常務には、重ねて重ねて厚く厚く衷心より御礼を申し上げます。又、設置にあたり、心よくご了解頂いた山主の下北山村・上平一郎様にもお礼を申し上げるものである。

(記 沖崎)